

アンケートに答えます！



4月28日、フランスでは50万人が労働法制改悪反対のゼネスト・デモに立ち上がった。25%を超える失業率に苦しみ、怒る青年・学生が先頭に立ち、警官隊と衝突。フランス人民はISのテロ対策が名目の非常事態宣言体制が敷かれ続ける中、連日激しく闘っている。

学生とはいかなる存在だろうか？

●アンケート回答ありがとうございました！

自治会アンケートに回答していただいた皆さん、ありがとうございました！

今回は木曜日のクラスで「広大での反戦ストライキについて、学生自治会について」自由記述してもらった内容に対して、特徴的だった意見を3つほど抜き出して回答していきたいと思います。（他の主だった意見の一覧は右側に載せました。）

●反戦ストは悪いことではないと思うが、自分はまだ何も知らないので...

（自由記述）

広大での反戦ストライキは悪いことではないと思う。

頑張ってください。

自分はまだ、何も知らないまま勉強してからどう行動するか考えます。

この意見は、非常に率直な意見であるし、多くの学生の感じているところではないかと思います。「まだ何も知らないので」と謙遜されていますが、今の時代・政治の在り方を“身をもって”よく知っているのは私たち学生自身ではないでしょうか。

例えば「ブラック企業」や「非正規雇用」の問題。いい大学に出ても、二人に一人の若者が非正規雇用になる状況をほとんどの学生が見据えて大学に来たのではないかと思います。企業や国が若者の未来を保障できなくなっ

～木曜のクラスから出た主な意見～

- 自由だと思う。ただ私は反戦派です。
- 参加はできませんが、がんばってください。
- 戦争には反対なので、やるべきだと思います。
- 頑張ってください。
- 自分で選挙に行った後で答えを出したい。
- 戦争は嫌なことではあるが、大学機能が一時的にも停止してしまうようなストライキはしたくない。あくまで現状でできる学問がしたい。
- ストライキという過激な行動はしないほうがいいと思う。
- 知識や技術を身につけることが大事だと思います。学生は学生らしいことをやったほうがいいじゃないかと。
- 興味ないですけど、頑張ってください。
- 周囲に迷惑をかけない程度にやることは良いと思う。ただ具体的な解決策を提示して欲しい。

皆さんの回答ありがとうございました！
今回の意見をもとに、議論の方向性をつくっていきます。学生こそ、未来を切り開く議論をつくり出そう！

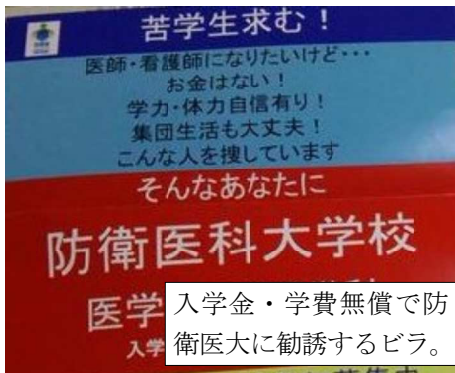
（委員長・森田寛隆）

E-mail: hiro dai86@yahoo.co.jp

Blog: <http://hiro dai86.blog.shinobi.jp/>

広島大学学生自治会

ている。こうした政治。それどころか、安保安法制を明確な転換点として、軍事研究の公然とした開始、学費無償や奨学金をダシにして軍隊に行かせる経済的徴兵制など、国を守るためなら学生・若者を犠牲にしてもいいんだという在り方にさえ転換し始めている。このことを、細かい条文など知らなくとも、自分自身の人生、将来の問題として捉えているのは誰よりも私たちの世代です。もっともっと、こんな在り方でいいのかと議論し声をあげましょう！



そのうえで、軍隊や核兵器を維持し、戦争を準備している連中は、戦争・核の悲惨を「知るからこそ」、その脅威を自らの利益のために利用していることを考えてほしいと思います。今月27日に広島に来ると言っている米オバマ大統領はその筆頭です。最大の軍隊と核を持ちながら、あたかも平和の使者のように広島に来るとするのはまったくの欺瞞でしかないのではないでしょうか。

問題は展望ある立場に立つことです。知ることはその立場を補強するためのものでしょう。核の悲劇を知ることこそ核を手放さない立場をとる者もいる。そんななか、反戦ストを悪くないと立場をとっていること自体が大きなことだと思います。立場をとることを恐れず議論し行動しましょう！

●反戦ストはいいことだと思うが、政治のことを安易に決めつけるのはよくない

反戦ストを行うことはいいことだと思うが、
ただ、集団的自衛権の行使や
現在の政治が戦争につながることを
安易に決めつけるのはよくないと思う。
[そのためのテロが頻発しているが、国に反対するだけでなく、国を否定するポイントもあると思う。]

反戦ストを支持している上で、I Sなどのテロをどうとらえるべきか、という意見だと思います。

彼らが民衆を襲っていることはまったくもって許せないことです。そのうえで、I S等が生まれた最大の要因は欧米による石油資源をめぐる長い中東支配にあります。また、I Sの持っていた武器はもともとアメリカが、敵

対するアサド政権を倒すためにと彼らに横流ししたものです。彼らがテロを行う理由をつくり、武器さえも提供したのは、それで利益を得てきたアサド政権の圧政と欧米諸国の政府自身です。

こうした状況の中で、シリアと地続きのトルコでは、民衆へのテロを行うI Sにも、シリアとの戦争を続ける政権にも反対して労働者がストライキに立ち上がっています。昨年11月にはまさにその戦争のさなか、戦争を進めるそれぞれの自国政府を打倒する労働者の国際連帯をつくろうと日本にも駆けつけました。どの国の政府も戦争突入の理由を「自衛のため」だと言います。しかし、戦争に動員されるのはどの国でも労働者・学生です。国境を越えた労働者・学生の団結があれば戦争を阻止することができる。トルコの労働者はこのことを命がけで実践しています。彼らとともに闘おうじゃないですか！



●平和に大学生活をおくりたいので、まきこまないで下さい

(自由記述)

平和に大学生活をおくりたいので、まきこまないで下さい。

この意見に対しては、「平和な大学生活」自体が困難になっていると思います。私たちはむしろ、1つ目の意見への返答に出したように、理不尽に巻き込まれ続けている側だと思います。昨年度末、広大構内で4年生が飛び降り自殺しました。非正規雇用の拡大といった、ストレートで卒業できなければまともに生きていけないのではという圧力があり、「普通に」大学生活を行うこと自体が命がけのことになっていると思います。同様の環境にあるフランスの学生たちは、生きていけない社会を強制する政治を変えようとストライキに立っています。「平和な大学生活」を送るためにも、フランスの学生たちのように、自分自身が大学と未来の主人公として立って、政治と大学を変える主体に立ちませんか？

沖縄闘争に行こう！ 当面のスケジュール

※ぜひともhiro dai86@yahoo.co.jpまで連絡ください！

◆5・15沖縄現地闘争

5月14日～16日の3日間の現地行動。1972年5月15日、沖縄の「祖国復帰運動」によってアメリカから日本に返還されました。しかし「基地付き・核付き」という返還の中身は到底受け入れられないもので、沖縄県民にとって新たな「屈辱の日」となりました。

※航空チケット代・宿泊費の負担は相談に応じます。

◆学習会「どうやって戦争を止めるか ―沖縄全島ゼネストの闘いから学ぶ」

5月2日(月)18時～ 学生プラザ1Fフリースペースにて
ベトナム戦争の最中、戦闘機の飛び立つ沖縄の米軍基地で働く労働者が「死すべきは基地だ！労働者は死んではならない！」と叫びストライキに立ち上がりました。米軍の命令を無視するという恐ろしい行動。しかし戦争を支えているのは自分たち自身だ…。基地労働者はストにどうして立てたのか。戦争を直接止めた沖縄の闘いに学びます。